



いち早く防災情報を得る

県からの情報発信を上手に利用しましょう。

防災わかやまメール 配信サービス

県内の気象情報や地震・津波の情報、避難勧告等の発令情報など、さまざまな情報をメールでお知らせします。メールの受信には登録が必要となります。ぜひ登録してください。



防災わかやま
メール配信サービス
登録用QRコード

登録用メールアドレス
regist@bousai.pref.wakayama.lg.jp

※携帯電話でQRコードを読み込むか、登録用メールアドレスに空メールを送って設定すると登録されます。

防災わかやま



防災を学び、意識を高める

津波防災教育センター

地震・津波に対する備えを学習・啓発する拠点施設です。3D津波映像シアターでは迫力ある映像で地震・津波の威力を体感することができます。津波の伝わり方を学習することもできます。



☎ 0737-64-1760
〒671-0073 和歌山県白川町広671
センター 広川町広671

各種パンフレット・啓発用DVD

防災イベントや防災研修などに利用できる各種パンフレットの配布や啓発用DVDの貸し出しを行っています。詳しくは県WEBサイト「防災わかやま」をご覧ください。



パンフレット
● かけがえのない命をまもるために
● 津波から「逃げ切る!」ために 等



啓発用DVD
● 巨大地震!
～自分の力で家族の命を守る2つの対策～ 等

避難先の検索

スマートフォンなどからは

避難先までのルート検索アプリ「全国避難所ガイド」をダウンロード。GPSによる現在地から避難先までのルート検索ができます。



ファーストメディア
「全国避難所ガイド」
<http://www.hinanjyo.jp/>

避難所情報は「防災GIS」で

県WEBサイト「防災わかやま」から「防災GIS」をクリック。災害時に、開設済みの避難所や通行規制等の状況などを、リアルタイムに電子地図で確認できます。



日頃からの備え

非常持出品

避難するときにはまず最初に持ち出すべきものとして、避難バッグに入る程度の量をひとまとめにし、すぐに持ち出せるよう置き場所を決めて備える。



〔非常持出品の例〕
・現金・救急医療品・非常食・常備薬
・飲料水・携帯ラジオ・懐中電灯 など

非常備蓄品

救援活動が受けられるまでに必要な1週間分程度の水や食料などを被災後でも取り出せる場所に保管し、備える。



〔非常備蓄品の例〕
・備蓄食料・備蓄飲料・卓上コンロ
・ウェットティッシュ など

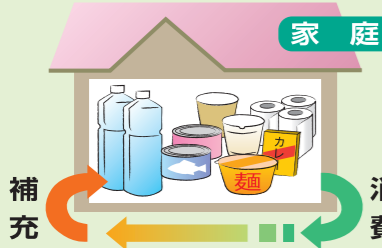
地域防災リーダー育成講座 「紀の国防災人づくり塾」

地域の自主防災組織や企業などで防災の中心的な担い手となる方を育成するため、防災に関する知識、技術を学ぶ「紀の国防災人づくり塾」を実施しています。本講座修了者には、日本防災士機構が実施する「防災士資格取得試験」の受験資格が与えられます。



「ところてん方式」で 備蓄も楽々!

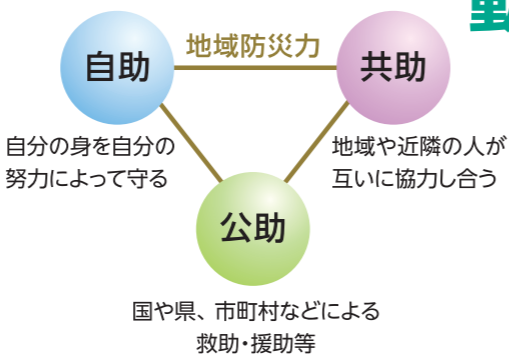
日頃から使っている消耗品・衛生用品・食料などを多めに買って置き、消費したら補充する「ところてん方式」で家庭での備蓄が簡単にできます。



自主防災活動

自主防災組織とは?

地域住民が協力・連携し「自分たちの地域は自分たちで守る」活動を目的に、自主的に結成する組織のことです。防災対策の基本は、「自助」、「共助」、「公助」の3つであり、これらがつながることで、被害の軽減を図ることができます。



自主防災組織の活動

- 災害時に地域内における初期消火や住民の安否確認など重要な役割を担います。そのため、平常時には、災害時における共助の役割を果たすための準備が必要です。
- 平時時**
 - 防災知識の普及・啓発
 - 家庭での取組の普及啓発・支援
 - 防災訓練の実施
 - 地域の安全点検
 - 防災資機材・備品などの準備と確認
- 災害時**
 - 情報の収集・伝達
 - 避難支援
 - 避難所の運営・管理
 - 救出・救助と救護活動
 - 出火防止・初期消火活動

インタビュー



紀の川市防災リーダー会
会長 松浦映次さん

知人の勧めで、防災士の資格を取得し、防災活動に携わっています。現在は、自主防災組織に所属し、住民の方と避難経路の確認をしたり、小学校に向いて災害に備える大切さを伝えていきます。近い将来、南海トラフ地震は必ず発生すると言われています。いざという時のため、日頃から一人ひとりが災害の知識を身につけ、考え行動することが大切です。